



参加した子どもたちの声

今回新設された「子ども部門やっさ大賞」を受賞した西小学校の児童たちからは「優勝してうれしい」という素直な声が出ていた。はじめての大舞台で踊る1年生は、何度も踊ったことのある高学年の児童へのあこがれもあるようで「もっと上手に踊れるようになりたい」との声もあった。高坂小学校の児童からは「来年も出たい」久井南小学校の児童からは「もっと踊りたかった」沼田東小学校の児童からは「お客さんにがんばれと声をかけられて、うれしかった」という声もあった。初めて大舞台で踊る子どもたちにとっては、良い経験になったように感じる事ができた。

保護者に聞く、子どもたちの「やっさ踊り」

「参加してよかった」という声を多く聞く事ができた。「たくさんの観客の前で、やっさ踊りを踊れてよかった」といった、学校で練習した成果を披露できる機会があることへの喜び「祭りの臨場感を子どもに体験させてやれてよかった」という、大舞台での体験へのうれしさ

「進行もスムーズで、子どもたちへの負担も少なかった」など、運営への感想なども聞く事ができた。「子どもたちが賞が取れなくて残念だった」という声もあったが「また出場して賞を取りたい」といった次回への意気込みも感じる事ができた。

先生たちの感想

子どもたちが踊り終えた姿を見ながら、先生たちも満足そうだった。やっさ踊りを踊ったことのある先生からは「やはり、学校内だけで踊りを披露させるだけでなく、祭りの独特の雰囲気の中で踊ることは、子どもたちにとって良い体験なるだろう」という声が聞かれた。

観客の反応

観客の中には、知っている子どもたちに「がんばれ！」と声をかけ応援している人が多かった。観客の表情は、とても温かいものだった。「子どもたちが元気にがんばって踊っている姿を見ているだけでも、とても楽しい気分になる」という声があり、好意的に受け止められているようだった。

まとめ

「子どもたちにやっさ踊りを」という動きは、これまでも学校や地域で行われてきたことですが、本年度(社)三原青年会議所は「三原の全ての子どもたち」へ対象を広げて活動してまいりました。この活動は本年度だけで終わるものではありませんし、終わらせてはいけません。全ての三原の子どもたちが「やっさ踊り」を踊る日が来るまで、私たちは活動をつづけてゆきます。そして、全ての子どもたちがやっさ祭りに出場してゆくためには、市民の皆さん、地域の皆さんの理解と協力が必要となってきます。今年出場した子どもたちや保護者や観客の笑顔を見て、この「三原の全ての子どもたちへやっさ踊りを」という活動が、三原にとって有意義な活動であることを実感する事ができました。想像してみてください。市民の祭りである「やっさ祭り」に、三原の全ての子どもたちがやっさ踊りを踊っている姿を…。また、それが10年、20年と続いたときに、どれだけの効果が生まれるかを…。そこには、明るい三原の未来像があるとは思いませんか？より一層、元気な三原を創り上げてゆくために、今こそ市民が「やっさ祭り」を通じたまちづくりを行なってゆくことが、大切になってくるのではないのでしょうか。